

交換留学(派遣) 帰国報告書

皆さんが無事留学を終えられたことを嬉しく思います。本報告書は以下の目的のために使用されます。

- ① 皆さんの留学に関する状況を把握するための資料です。
- ② 今後、交換留学プログラムを改善するための重要な資料となります。
- ③ 留学を考えている後輩達のための有益な資料となります。留学経験を共有するために、ぜひご協力ください。



本報告書は帰国後、1ヶ月以内に写真データと一緒にメールで提出してください。

あなたの情報(本報告書を開覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	University of Groningen(フローニンゲン大学)
留学先での所属学部・研究科:	Faculty of Economics and Business
留学先での在籍身分:	Exchange
留学期間:	2022年9月～2023年6月
神戸大学での所属学部/研究科:	経営学部
学年(出発時):	4年
帰国日:	2023年6月30日
本報告書記入日:	2023年7月4日

1. 留学先大学について

1-1	受入許可書(Acceptance Letter)を貰えた日	6月 4日
	参加必須のオリエンテーション日	8月 31日
	学期:	① 9月 5日～ 11月 11日
		② 11 14日～ 2月 3日
③ 2月 6日～ 4月 14日		
④ 4月 17日～ 7月 14日		
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。	フローニンゲン大学は経営学分野で有名で、各国から優秀な学生が集まります。授業は生徒間のディスカッションに重きを置いており、生徒が積極的に議論を進めていき大変活発です。国際性も豊かなため、様々なバックグラウンドを持った学生と関わることができます。
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。	
	語学面でのサポート:	英語圏ではない国からの留学生も多いため、語学に関しては寛容な印象があります。一方で、授業についていくためには相應の英語力は求められます。
	勉学面でのサポート:	学生が主体的に授業に参加できるように、授業はLectureとTutorialに分かれ、Tutorialではプレゼンテーションやディスカッションが主になります。ディスカッションが詰まったときには、教授が新たな問いを投げかけ、より活発になるよう進行してくれます。
	精神面でのサポート:	特にわかりません。
	住居・生活面でのサポート:	SSHという組織が寮を管理しているためシステムがわかりやすいですが、寮によっては設備やサポートに対して不満を持つ学生もいるようです。
	課外活動のサポート:	学校内外で様々なイベントを企画しています。ENSという団体が、留学生に対しても交流イベントを多く提供してくれます。メールを登録しておく、週ごとに新たなイベントを告知してくれます。

2. 住居について

2-1	住居についてアドバイスを含ま自由に記入してください。(気を付けること等)	オランダは住居が不足しており大きな社会問題となっているため、寮を予約する際も競争が激しくなります。そのため事前に寮の手続き方法を確認したり、興味のある寮を絞っておくなど計画的に行動することが肝要です。
-----	--------------------------------------	--

3. 生活について

3-1	インターネット接続環境について	
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。	私が住んでいる寮はWifiが不安定で学生からの批判もあったのですが、留学終了間近になって新しいWifiが導入されました。他の寮に関してはそのような問題は聞いたことはありません。
	大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	安定したWifiがあります。
3-2	医療について	特にわかりません。
	留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	通っていません。
3-3	銀行口座等について	
	留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	オランダの銀行口座開設は必須です。理由は、フローニンゲンの多くの店(スーパーなど)がクレジットカードでの支払いを受け付けていないからです。そのため、オランダの銀行口座に紐づけしたマエストロというカードを作る必要があります。口座開設は留学前後に手順に沿って手続きをします。

4. 経費について(奨学金、留学費用)

4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	JASSO
	支給額(円/月):	8万円
	その他(渡航費等の支給):	
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	12万円
	住居費:	(月額) 75,000円 × (留学月数) 11ヵ月 = 825,000円
	食費:	(月額) 40,000円 × (留学月数) 10ヵ月 = 400,000円
	保険料:	82,000円
	その他:	20,000円
	合計(留学期間全体の費用):	1,447,000円

5. 異文化体験について

5-1	留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。	フローニンゲンに来て特に驚いたことは、住民のほとんどが自転車を持っていることです。自転車専用レーンもあり、地域もコンパクトなため移動は容易にできます。また、フローニンゲンでは夜にクラブなどに出歩く学生が多いことも特徴です。留学中にはそのような日本では味わえない文化を体験することができます。
	大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。	知り合ったオランダ人の友人とは、普段からBBQをしたり家に行き一緒に料理を作るまで仲良くなりました。普通に留学をしていられないような経験もさせてもらったため、現地の友人を作ることはとても意味のあることだと感じました。
	課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。	大学の友人と毎週サッカーをしていました。時にはメンバーを集めて寮対抗の試合をしたりなど、大変有意義な時間を過ごすことができました。
	留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)	フローニンゲンはヨーロッパの中でも特に安全で住みやすい都市だと思います。夜でも若者が歩いている、注意していれば問題なく過ごすことができます。

6. 就職活動について		
6-1	留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。	11月にボストンキャリアフォーラム(BCF)に参加しました。そのため9,10月はエントリーから面接まで就活に多くの時間を割いていました。BCF後も志望企業の面接が続きました。

7. アドバイス、振り返り		
7-1	現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。	技科Diary
7-2	現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。	電子レンジ用炊飯器、日本の調味料、就活用の道具、洗顔料など
7-3	留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)	語学力の向上はもちろんのこと、多国籍の方々とコミュニケーションをすることに慣れたことは大きかったと感じています。私は40人ほどの学生が一つのキッチンシェアするような寮に住んでいたため、日頃から様々なバックグラウンドを持つ友人と話すことができたのはとても貴重でした。
	語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。	留学前:() 点 → 帰国後:() 点
7-4	振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。	寮で長い間スマホのWifiが繋がらなかったことです。学生が寮の管理者に辛抱強く連絡をすることで、新しいWifiを導入してもらえるようになりました。
7-5	留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。	留学期間でも必要な情報の提供や温かい言葉をかけていただき、非常に大きな助けになりました。
7-6	本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。	薦めます。約10ヶ月間海外で暮らし勉学に励むことは、かけがえのない経験になると思います。
7-7	留学全体を振り返って、以下の質問に教えてください。	(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)
	・留学先大学の授業の「質」(内容、レベル等)に満足しましたか	5
	・留学先大学の学生サービスに満足しましたか	4
	・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか	4
	・住居の「質」(広さ、料金等)に満足しましたか	3
	・全体として留学に係る費用は安かったかと思ひ、満足しましたか	5
	・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか	5
・留学全体の総合的な評価	5	

8. その他感想、後輩へのメッセージ等を自由に記載してください。(800字～)

オランダの北部にあるフローニンゲン(Groningen)に位置するフローニンゲン大学に約10ヶ月間交換留学をしました。フローニンゲンは緑が多く落ち着いた一方で、中心地に行けばヨーロッパ独特の活気を感じることができるため、日々刺激の多い生活を送ることができます。フローニンゲン大学は街の中心部と北部に2つキャンパスがあり、多くの学生が自転車で通学します。大学自体はオランダでも歴史が長く高い教育レベルを有するため、各国から優秀な学生が集まります。国際色も豊かで、様々なバックグラウンドをもった学生と関わりたいと考えている方にとっては最高の環境だと思います。このような環境で勉学や異文化交流に励めたことは、この上ない貴重な経験でした。

フローニンゲンに来てすぐには、留学生や新入生を迎えるイベントが1週間を通して開催されます。そこではスポーツ大会や街歩きなどのイベントに加え、オランダらしさを味わえる様々なイベントに参加することができます。ここで日本とは全く違った文化を体験しながら、留学を通して関わる多くの友人を作ることが可能です。その後、9月上旬には授業が始まり、現地の学生に混ざって高いレベルの授業を受けることとなります。フローニンゲン大学の授業は基本的にLectureとTutorialに分かれており、それぞれの授業で週にコマずつ受講することとなります。Lectureでは教授による講義があり、Tutorialでは学生によるプレゼンテーションやディスカッションが主となります。Tutorialでは学生が主体となって進行する中で、異なる考え方や意見をぶつけ合いながら、Lectureで得た知識をより実践に近いものに昇華できることは大きな学びとなります。

大学外でも留学生生活を満喫することができます。多くの寮では学生間の交流が活発で、例えば私が住んでいた寮は一つのキッチンに40人の学生でシェアしていたため、一緒に食事をしたりゆっくり話したりなど大変有意義な時間を過ごすことができました。特に、学生が自国の郷土料理を持ち寄るインターナショナルディナーや、車を借りてドイツやフランスまで旅行に行ったことは大変良い思い出です。

留学では新しい生活に慣れることや、就活との両立などやはり大変な点は多いです。しかし、日々必死に目の前のことに取り組み、留学生生活をより良いものにする日々はとても実りあるものです。私自身、思ったようにいかないことや挫折そうになることに直面したことは多々ありましたが、振り返ってみればその一時がとても良い経験でした。覚悟を持ち、日々努力することで留学生活はより充実したものになります。留学は自分次第で楽しくも辛いものにもなり得ます。フローニンゲン大学に留学する方には、日本では味わえないこの特別な生活を思う存分楽しんでほしいです。

9. 留学経験の共有について

あなた自身の写真や大学キャンパス等の写真があれば、ぜひ報告書と共にGEMsにアップロードしてください！

同意する場合、連絡可能なメールアドレス:	
----------------------	--

1-4 近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数/週	留学先での単位数	授業での使用言語	履修している学生数	予習、復習、テスト等の成績評価についてアドバイスも含めて教えてください
1	International Strategic Management	Prof Emeritus Hans van Ees	4	5	英語	200	授業を通して、1チーム4回のプレゼンテーションを行う。企業が世界で戦うための戦略やセオリーを広範に学ぶ。プレゼン60%、テスト40%。
2	Cross-Cultural Management	Dr. Naveen Kumar Jain	4	5	英語	200	身近な例やセオリーを用いながら、多様な文化が共存する組織でどのように行動していくべきかを学ぶ。プレゼンとテストの合計点で評価。
3	Behavioural Corporate Finance	Dr. Marc Kramer	4	5	英語	40	企業のファイナンスにおける心理・行動面に焦点を当て、具体的な企業例を用いてプレゼンテーションをする。プレゼン20%、テスト80%。
4	Human Resource Management for BE	Dr. Yingjie Yuan	4	5	英語	100	プレゼンテーションのためには、実際に企業のHR部門で働かされている方にインタビューをする必要がある。プレゼン・レポート40%、テスト60%。
5	Corporate Finance for Minor Finance	Dr. B. (Borhan) Sayedy	4	5	英語	40	コーポレートファイナンスについて基礎的な部分からより深いところまで学ぶ。テスト100%。

・授業(カリキュラム等)について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

授業は基本的にLectureとTutorialに分かれます。Lectureでは大講義室で多くの学生が共に講義を受けますが、Tutorialではいくつかのグループに分かれ、異なる時間で受講します。Tutorialでは学生が主体となってプレゼンテーションやディスカッションを行うため、そこでどのように取り組むかの姿勢がとても大事になります。私の場合ほとんど毎週プレゼンテーションがあったため、そのためにもLecture後はチームメンバーと集まって、議論やプレゼン資料の作成を行う必要がありました。現地の学生はそのような授業形式に慣れていることもあり、グループミーティングにも余裕を持って取り組んでいる印象でした。多くのクラスではテストに加えて、グループ課題が大きく評価されるため、単位を取るために予習復習にしっかりと取り組むことが肝要です。